

## いざ災害、わが身わが命は自分で守る

取材日：平成22年(2010年)11月11日

### 【団体の活動目的】

船橋SLネットワークは、近い将来予想される大規模災害に備えて、災害救援ボランティアとして訓練を行い、地域防災に貢献することを目的として平成18年10月に設立され、会員は船橋市、習志野市、鎌ヶ谷市在住のセーフティリーダー（Safety Leader）45名により構成されている。

(注) セーフティリーダーとは阪神・淡路大震災（1995年）の教訓をもとに設立された、民間団体の「災害救援ボランティア推進委員会」が、災害救援ボランティア活動を希望する人を対象に一定の講座を開催し、修了者をセーフティリーダーとして認定している。

セーフティリーダーは「わが身わが命は自分で守る」というボランティアの基本精神を発揮して、日常的な地域の結びつき、助け合いを大切にしながら、いざという時には率先して自らがその場においてリーダーとなり、まわりの人に呼び掛けて一人でも多くの人を救い、被害を最小限に軽減する活動を行う。

### 【支援金事業内容】（支援対象経費総額 133,514円 支援金確定額 66,757円 支援率50%）

船橋市内の自治会連合協議会、地区社会福祉協議会や地域の防災活動のリーダーなどを対象として公民館等を利用し7地区の講座を開き、もし大災害が発生した時にリーダーとして活動できるように避難所の運営、応急救護法などのスキルアップの支援を行う。

事業の費用は講師謝金、消耗品（三角巾、ゲームカードなど）、印刷製本費、会場使用料などに使用される。

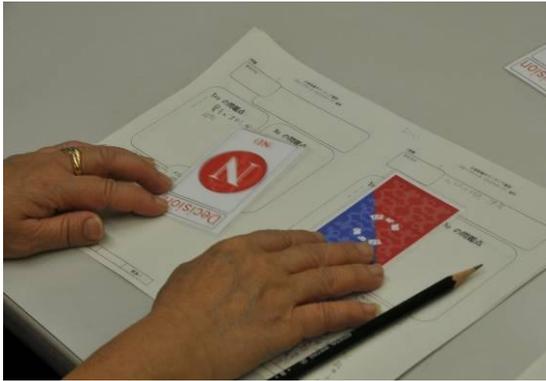
災害救援ボランティアの重要性については、これまで市議会でも採り上げられており、当事業の支援を受けることにより、上記の協議会ならびに地域団体と連携して開催できるよう期待している。

### 【活動の現場から】

平成22年11月11日（木）に船橋市男女共同参画センター（宮本2丁目）において、「防災講座」が開かれたので取材にうかがった。市内の15名の方々が参加し、内容は「女性ボランティアによる体験談」「非常食を食べてみよう！」「クロスロードゲームをやろう」であった。午後からの取材であったのでクロスロードゲームを参観した。クロスロードゲームというのはカードゲームで災害対応を疑似体験し、自分がどのように行動するかシミュレーションするゲームである。

例えば、大地震が起き30分位で津波が来ると予想されているが、まだ高台の避難所に来ない人がいる。地域リーダーのあなたは探しに行くか、避難所にとどまるかとの設問に対し「YES」か「NO」のカードを選択する。それを参加者全員（5人の3グループ分け）が自分の判断した理由をそれぞれ述べる。特に「YES」と「NO」の数の多さでグループの結論を決めるわけではなく、次の設問に移っていく。脇で見守っているSLネットワークの講師（4名）は、その時の予想される状況（津波が予想よりも早く来るかもしれない。もし探しに行けば自分が津波に襲われるかもしれないなど）をアドバイスし、セーフティリーダーとしての決断力を問うている。

いくつかの設問が提示され、最後にグループの代表者が、一番判断が難しかった設問についての意見交換の状況を述べた。片桐代表はその説明に一つ一つ丁寧にコメントされた。



クロスロードゲーム



設問に対する参加者の意見交換

### 【事業に期待される効果】

近い将来予想される大震災に対し船橋市としても防災計画が検討されている。船橋 SL ネットワークは大災害発生時の家族ならびに地域の防災活動のリーダーを支援育成するため、市民への地域密着型の講座を開設していることは、非常に意義ある活動と思われる。地区社会福祉協議会など地域団体も災害時対策を重要課題として取り組んでおり、それらと連携した講座を開くことにより更なる広がり効果が期待できる。



グループ毎の結果発表



スタッフの皆さん

### 【取材を終えて】

講座の終盤には講師側から安心登録カード、災害用伝言ダイヤルや避難場所のプライバシーなどについて講話があり、実例と豊富なノウハウにより参加した市民が理解できる講座内容に努めていることが感じられた。防災の大切さを学んだ講座であった。

関わり先（連絡担当者）  
船橋SLネットワーク  
代表 片桐 卓  
TEL：047-474-7685